

教育目標: ・健康な子ども ・進んで学ぶ子ども ・心の豊かな子ども ・よく働きなしとげの子ども ・考えくふうすることも
 めざす学校像: 心づくり、体づくり、学びづくり、協働による人づくりを実践する学校
 めざす児童像: 3つの「あい」に一生懸命取り組んでいる子供(あいさつ、アイデア、高め合い)
 めざす教師像: 「法の遵守とサービスの厳正」、「プロとしての自覚と使命感」、「組織人としての言動」、「公務員としての社会性・協調性・コミュニケーション能力」を兼ね備えた教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標		成果指標		今後の課題	学校関係者評価記入欄
				中間	最終	中間	最終		
心づくり	すべての人を大切に する人権意識を醸成し、共感的な人間関係を育む。	相手を思いやり、命を大切に する豊かな心を育てる。	ふれあい月間、人権月間 を活用、挨拶励行や言語 環境を整える取組を工夫 し実施する。	4	/	3	/	ふれあい月間を中心に、いじめアンケート の確実な実施と共有を継続していく。今 後、第二中学校と連携した挨拶運動等、 児童発信の取組を活性化させ自主的な活動を 導くことを課題とする。	第二中学校との連携は隣接しているからその 取組として今後も進めてほしい。声を出すことだ けに捉われるのではなく、挨拶の意義や人の関 わり合いの手段としての価値を深め、豊かな心 を育てていきたい。
		学校・学級の帰属意識 を高め、自己肯定感を 醸成する。	学級活動・学級会・縦割り 班活動等特別活動の充 実を図り、自他の良さを伸 長させる。	4	/	4	/	自分も人も大切に する心の育成を課題と する。そのためにも特別活動の充実、特に学 級活動を基盤とした集団での意思決定、縦 割り班活動による協同を大切に、帰属意 識を高め、自己肯定感を醸成する。	縦割り班活動では、帰属意識を高める活動がな されていると感じている。系統性を意識し、長 期的な視点で、多面的に問題解決を図る力を養 っていききたい。
学びづくり	主体的・対話的で深い 学びを実践し、確かな 学力を育成する。	問題解決的な学習を重 視し、主体的な学びに つながるよう授業改善 を図る。	単元を意識した学習計画 をもとに、児童に見通しを もたせ、「できる」「わかる」 授業を展開する。	4	/	3	/	児童が自分なりに考えたり発表したりできるよ う参画意識をもたせることが課題である。校内研究 を通して、問題解決的な学習の充実を目指し、 児童自らが学ぶ意義を見出すことができるよう授業 改善を図る。「できる」「わかる」「楽しい」を 実感できるように、個に応じた指導の充実を図る。	児童が主体となり学ぼうとする学習意欲は育っ ていると感じている。さらに創意工夫を凝らした 授業改善を望む。学校で学んだことを地域に発 信するような活動にも期待している。
		タブレット端末を効果的 に活用し、学び合いを 通して学力の定着を図 る。	学習場面でタブレット端末 を日常的に活用し、情報 活用能力を育成すると ともに、深い学びをめざす。	4	/	2	/	児童・教員の意識は高いが、日常的なタブレッ ト端末の活用については今後さらなる深化を課 題とする。校内で活用状況や方法を共有し、 教科・学習内容に応じて取組を選択できる水 準まで到達させていきたい。保護者の理解と 協力を得ることも今後の課題である。	教員がICT機器を活用した授業改善に努め ていると感じている。一斉授業での活用だけ でなく、個に応じた活用を望む。また、引き 続き情報モラルについての指導は必要であ ると感じている。
体づくり	自ら体を動かすこと ともに、すすんで健康な 生活を送ろうとする態度 を育成する。	運動の日常化や体力の 維持向上を図る。	外遊びの励行、運動量を 確保した体育授業、体力 調査結果に基づいた取組 を実施する。	4	/	3	/	校庭使用に制限があり、体育授業・休 み時間ともに工夫が必要であること、 制限により児童の外遊びへの意識が 低下していることが課題である。 引き続き外遊びの励行と体育的 活動の充実を図り、「運動の楽しさ」 や「体を動かすこと心地よさ」 を実感できるようにする。	休み時間に教員が積極的に外遊びに 参加している姿はとも良い。児童の 体力低下は感じられるため、 運動量を増やし、心身ともに健康な 児童の育成を望む。そのためにも 教員と児童が共に活動することは 大切だと思う。
		日常生活習慣の指導 を図り、心身の健康への 意識向上を図る。	「早寝、早起き、朝ごはん」 をスローガンに掲げ、 児童・保護者に啓発を図る。 また、食育を意図した 取組を年間2回実施する。	2	/	4	/	学校全体として食育活動の 充実を図ることが課題である。 給食指導に関連付けて、旬の 食材や地場野菜、行事食など 身近な場面から食育活動を行 っていく。校長講話、保健だ より、給食だよりを通して「 早寝、早起き、朝ごはん」の 大切さの啓発を図る。	生活習慣の定着は図れている と感じている。地域参画型授 業ともあわせて、体験的に学 ぶ食育活動の充実を図り、 児童と保護者への健康意識 の醸成を望む。
協働	コミュニティ・スクール として、開かれた学校づ くりを推進・充実させる。 る。	学校情報の発信に努 め、学校の見える化を推 進する。	学校だよりをはじめ各種 により、学校公開、保護者 会、ブログの充実を図る。 CS協議会を中心とした地 域との連携を深める。	4	/	4	/	コミュニティ・スクールの在 り方について、周知を図ると ともに、保護者・地域とも に参画型授業を計画してい くことは急務である。教員も 積極的に情報発信や地域と つながる機会を持つことが 課題である。2学期に立ち 上げた保護者ボランティアを 活性化させていくことから 実践へとつなげていく。	少しずつではあるが、地域の 活動に参加する児童は増え ていると感じている。参加 することが楽しいと感じる 経験を積んでほしい。また 学校や地域での体験が、地 域や地域の人々となつな がるきっかけとなるよう な地域学習を期待する。